

ともにサットン・フー船葬墓 青／背景：船の内部発掘状況



2025
12. 13
SAT

英国 **サットン・フー** 船葬墓と

Sutton Hoo Ship Burial and Fujinoki Kofun

特別陳列 **藤ノ木古墳**
パネル展

—ユーラシア東西の未盗掘墓—

主催：奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

後援：セインズベリー日本藝術研究所、(公財)由良大和古代文化研究協会

協力：(一財)橿原考古文化財団



©Trustees of the British Museum

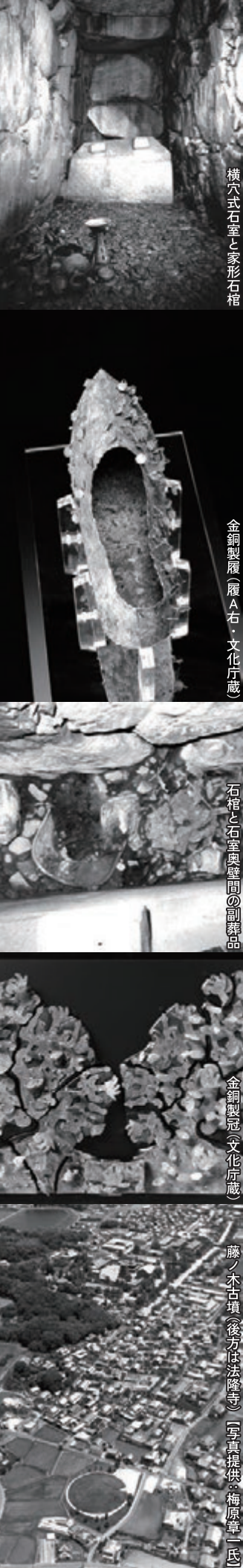


2026
1. 18
SUN

ともに藤ノ木古墳 金銅製冠復元品／背景：石室入口から石室内部を望む



橿原考古学研究所附属博物館
THE MUSEUM, ARCHAEOLOGICAL INSTITUTE OF KASHIHARA, NARA PREFECTURE



以下全て藤ノ木古墳
横穴式石室と家形石棺

金銅製履(履A右・文化庁蔵)

石棺と石室奥壁間の副葬品

金銅製冠(文化庁蔵)

藤ノ木古墳(後方は法隆寺)「写真提供:梅原章一氏」

英国 **サットン・フー**と **船葬墓**
Sutton Hoo Ship Burial and Fujinoki Kofun
特別陳列 **藤ノ木古墳**
パネル展
— ユーラシア東西の未盗掘墓 —

日本列島とユーラシア大陸を挟んだ西側にあるブリテン島には、藤ノ木古墳とおよそ同時代、6・7世紀の有名な未盗掘墓があります。英国サフォーク州のサットン・フー船葬墓です。1939年の発掘では、船上に墓室を造り、船ごと墳丘で覆う構造が解明されるとともに、その豪華で豊かな副葬品から、アングロサクソン時代の王墓であることがあきらかとなりました。

今回の展示では、サットン・フー船葬墓について写真パネルを中心に紹介するとともに、同時代の未盗掘墓・藤ノ木古墳との共通性を、大陸からの位置関係、副葬品の国際性、新たな宗教が伝来する社会環境などに注目して見ていきます。

講演会

無料・申込不要(先着250名)

日時: 2026年1月10日(土) 13:00(開場12:00) ~ 15:00

会場: 奈良県立橿原考古学研究所 講堂

サイモン・ケイナー氏【英国セインズベリー-日本藝術研究所所長】

「王たちの墳墓: サットン・フー、ヨーロッパ、さらに彼方で(AD 600-800年)」
('Burial mounds of kings: Sutton Hoo, Europe and beyond, AD 600-800')

(※日本語での講演)

×

モデレーター: 吉村和昭【奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 学芸課副主任】

展示解説

観覧券が必要・申込不要

日時:

① 2025年12月20日(土) ② 2026年1月10日(土) ③ 1月17日(土)
各日 10:30 ~ (30分程度)

会場: 当館 特別展示室

開館時間 9:00~17:00(最終入館16:30)

休館日 月曜日(1月12日(月・祝)は開館)、
年末年始(12月28日(日)~1月5日(月))、1月13日(火)

入館料

大人400(350)円 / 高校・大学生300(250)円 / 小・中学生200(150)円

※()内は20名以上の団体料金

ただし国内の方で以下の場合は無料 ※それぞれ証明するものをご提示下さい

(1) 18歳未満及び高校生 (2) 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付き添いの方1名 (3) 留学生まほろばパスをお持ちの方、外国人観光客と一緒に来館するボランティアガイド(公益社団法人日本観光振興協会発行の観光ボランティアガイド組織一覧に掲載された団体の会員) (4) 65歳以上の方は平日のみ無料

■最寄り駅:

[近鉄橿原線《欽傍御陵前駅 Unebignyomae Sta.B41》…西出口から西へ徒歩約5分]

[近鉄南大阪線《橿原神宮前駅 Kashiharajingu-mae Sta.K42・B42》…中央出口から北へ徒歩約15分]

■駐車場: (約40台分) あり



奈良県立 **橿原考古学研究所附属博物館**
THE MUSEUM, ARCHAEOLOGICAL INSTITUTE OF KASHIHARA, NARA PREFECTURE

〒634-0065 奈良県橿原市欽傍町50-2

TEL (0744)24-1185 FAX (0744)24-1355

URL <http://www.kashikoken.jp/museum/> 左のQRコードからもホームページにアクセスできます。



以下全てサットン・フー船葬墓



1939年の調査風景



冑



ビザンチン製の銀製碗



王笏(部分)

© Trustees of the British Museum